

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. カリキュラムマップに基づいて、教員組織の編成方針を策定する。	→教員組織編成方針の策定(2013年度までに)	C
2. 神学研究科内規に基づいて、教員組織を検証する制度を整備する。	→既存の人事委員会における検証および研究科委員会に対する報告書の作成(2013年度より)	C
3. ファカルティ・デベロップメント(FD)活動を通じて教員の資質向上を図る。	→研究科の授業改善報告を取り入れたFD研修会の実施(年2回)。	B→C に変更

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

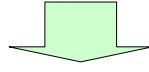
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目 11.0.1	(方針) [明文化に至っていない] (現状説明) 神学研究科として求める教員像および教員組織の編制方針は、教員間に了解はあるものの、明文化されてはいない。
☆	小項目 11.0.2	神学研究科の教員組織は、カリキュラムを実施するに適切であり、教育課程に相応しいものとなっている。
☆	小項目 11.0.3	教員の募集・採用・昇格については、研究科委員会内規に基づいて、適切に行われている。
☆	小項目 11.0.4	教員の資質の向上を図るため、学期に1回、全専任教員が参加するFD研修会を行っている。また、非常勤講師を対象としては、年に1回のFD研修会を行って、資質向上に努めている。しかしながら、研究科独自の課題を抽出し、それらに対応した内容となるよう一層の工夫が必要である。
☆	その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目 11.0.1	
	小項目 11.0.2	
	小項目 11.0.3	
	小項目 11.0.4	F D研修会（研究科）においてシラバスの必須要素について研修を行い、内容の充実を図った。
	その他	



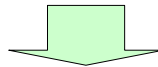
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目 11.0.1	
	小項目 11.0.2	
	小項目 11.0.3	
	小項目 11.0.4	さらに研究科独自の課題について抽出を試み、それらを踏まえてのシラバス内容を精査し、一層の充実に努める。
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目 11.0.1	
	小項目 11.0.2	
	小項目 11.0.3	
	小項目 11.0.4	
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目 11.0.1	
	小項目 11.0.2	
	小項目 11.0.3	
	小項目 11.0.4	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○「神学研究科として求める教員像および教員組織の編制方針は、教員間に了解はあるものの、明文化されてはいない。」のに対して、なぜ明文化がされないのでしょうか。その理由と今後の対応方針の説明が求められます。

【学内委員】

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも現状はどうか、要素を視野に置きながらも少しご説明をお願いします。例えば、「教員組織が適切である」としていますが、何故適切といえるのかの記述が望まれます。

○現状説明で課題がかかげられていますが、改善すべき事項への記載も必要ではないでしょうか。

○目標の実現に期待します。

○ここで進捗評価がBとなっているFD研修会は、中項目6.3において評価CとなっているFD研修会とは別のものとして、内容を切り分けて開催しているということでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目11.0.2の現状説明について、カリキュラム編成にあつては、研究科委員長および教務担当教員のほか、各分野（聖書分野／歴史・文化分野／組織・思想分野／実践分野）の代表者から構成されるカリキュラム委員会（研究科）が組織され、学位取得までのプロセスを念頭に置きつつ、カリキュラム編成原則を立案・確認している。各授業担当者の割り当てについても、その原則に基づき適切に行っている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

11.0.0.S1	専任教員一人あたりの在籍学生数
11.0.0.S2	開設授業科目における専任比率
11.0.0.S3	専任教員の年齢別構成
11.0.0.S4	教員一人当たりの授業時間数
11.0.0.S5	本学出身の専任教員の構成比率
11.0.0.S6	海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
11.0.0.S7	教員組織における実務家教員の占める割合(専門職大学院に限定)
11.0.0.S8	教員組織における女性教員の占める割合
11.0.0.S9	任期制教員(契約教員)の採用数
11.0.0.S10	実験実習指導補佐、教務補佐、授業補佐の採用数
11.0.0.S11	ティーチング・アシスタント(TA)の採用数
11.0.0.S12	契約助手の採用数
11.0.0.S13	実験助手の採用数
11.0.0.S14	リサーチ・アシスタント(RA)の採用数
11.0.0.S15	公募制による採用教員の数

<個別的な指標>
